

がん検診の説明

※下記に紹介している以外の検査も受診可能な場合があります。ただし、その場合は全額自己負担となり、「受診票」には検査項目と、その検査費用は記載されませんので、予約時に料金を健診機関にお尋ねください。

がん検診は以下をご理解の上、お申込みください。

■がん検診について

がん検診の目的は、がんを早期発見し、適切な治療を行うことでがんによる死亡を減少させることです。がん治療中の方、主治医の下でがんを経過観察中の方は、そちらでフォローを受けてください。

■がん検診の利益と不利益について

【利益】・標的とするがんによる死亡を減らすこと。・早期発見により治療が軽度で済むこと等です。子宮頸がん検診と大腸がん検診では、がんになる前の病変を見つけて治療することによりがんになることを防ぐことも可能です。

【不利益】・実際にはがんがあるのに「精密検査不要」と判定される(偽陰性)。・実際はがんがないのに「要精密検査」と判定される(偽陽性)。・内視鏡検査時の出血やバリウム検査時の腸閉塞など、検査に伴う合併症を起こす等の可能性があります。

子宮がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 20歳以上 2年に1回

子宮頸部細胞診検査

子宮頸部の細胞を採取し、その中のがん細胞の有無を調べます。また、がんになる前の段階(異形成)で見つけることができます。

注意

- ・妊娠の可能性のある方、妊娠されている方は受診できません。
 - －妊婦健診(初期)と重複する可能性があります
 - －出血するリスクがあります
- ・生理中の方は正しい結果が得られませんので検査をお断りする場合があります。生理中を避けて受診してください。

乳がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 20歳以上 2年に1回

マンモグラフィまたは乳腺超音波検査(40歳以上はマンモグラフィを推奨します)

マンモグラフィは、乳房を片方ずつ、プラスチックの板で挟んで圧迫し、乳房を平らにしてX線撮影をします。個人差はありますが、痛みを感じる方がいます。ごく早期の小さながんを見つけることができます。

乳腺超音波検査は、機械から出た超音波が臓器にあたってはね返る様子を画像にします。痛みなどはありません。

注意

- 以下に該当する方は検査をお断りする場合があります。
- ・妊娠の可能性のある方、妊娠されている方、授乳中の方
 - ・豊胸手術を受けた方
 - ・ペースメーカーや除細動器等、医療機器を埋め込まれている方

胃がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 40歳以上 2年に1回

胃部内視鏡検査または胃部X線検査

胃部内視鏡検査は胃にファイバースコープを入れて胃内部を直接観察します。苦痛が緩和されるよう喉に局部麻酔をします。経鼻内視鏡検査は嘔吐反射が起こりにくく、経口に比べ楽に感じる方が多いと言われています。

胃部X線検査は造影剤(バリウム)を飲んで、胃にX線をあてながら撮影します。

注意

- 以下に該当する方は検査をお断りする場合があります。
- ・胃の手術後の方
 - ・当日の体調が悪い方(高血圧、発熱、重度の便秘など)
 - ・食事の注意など検査前の注意事項が守られていない方

大腸がん ▶ 対象年齢と推奨される受診間隔 40歳以上 1年に1回

便潜血検査2日法

体外に排出された便の中の血液反応を調べ、大腸内の出血の有無を確かめる検査です。

注意

- ・生理中、生理直後を避けて受診してください。